

お名前 坂田 信昭  
ご住所 津市  
発生時にいた場所 津市白山町南出  
当時の年齢 16 歳

昭和 19 年は、太平洋戦争が末期となり、米軍の B 2 9 爆撃機が連日にわたって、日本本土を空襲し、東京をはじめ、殆どの都市が焼け野原となり、敗戦の色が濃くなってきた頃でした。その頃、毎年のように日本各地が地震に見舞われ、19 年 12 月 7 日昼過ぎに起きた東南海地震は M7.9。三重県が最も大きい被害を受けました。当時私は 16 歳で、全寮制の学校に在学していましたが、12 月 20 日から四日市の第 2 海軍燃料廠へ勤労学徒として動員されるので、たまたま自宅に帰っていました。故郷は津市白山町で、里山に囲まれた静かな農村でした。

この日は母と二人でいましたが、お昼過ぎ「地震や～」と言って庭に飛び出しました。母も後ろへ付いてきたのですが、揺れが激しく「足がふらふらして歩けん」と言って庭を這っていました。幸い家の竹藪が数十米の所にあるので、母を起こし手を引いて、細い畑道を小走りしました。間もなく揺れがおさまったので家に引き返しました。4～5 分程揺れていたのではないかと思います。

幼い時から地震には関心があり「地震の時は藪へ逃げろ」と教わっていました。地震災害の時の心構えは、学校で毎学期避難訓練があり、素足で運動場に集まった記憶があります。地震等緊急な事態が発生したとき、沈着に、どう対処し、どういう行動をとれば、いいかを判断できるよう心掛けることが大切と思います。